

今週の話題：

<麻疹>

世界的制圧と地域的排除に向けての進展状況、1998年-1999年：1989年、世界保健会議は1995年までに、麻疹の罹患率を90%に、死亡率を95%に低下させる目標を立てた。1990年、小児の為の世界サミットは、2000年までに小児の麻疹予防接種率を90%とする目標を立てた。アメリカ地域、東部地中海地域、ヨーロッパ地域において、それぞれ、麻疹根絶の目標年度が設定されている。1998年のデータでは、麻疹予防接種率は地域によっては減少し、症例数や予防接種率をWHOに報告した国も減少している。しかし未だに、麻疹は罹患率や致死率の主因である。

麻疹定期予防接種率の報告：世界の予防接種率は1997年の79%から1998年の72%まで低下した。

補足的予防接種キャンペーン：キャッチアップ、キープアップ、フォローアップからなる予防接種キャンペーンが、アフリカ地域の31カ国、東部地中海地域の3カ国、西太平洋地域の1カ国において未予防接種の小児に行われた。

麻疹の罹患率や致死率の報告と推定：1998年では、患者数、死亡者数は各々3000万人、88万8千人と推定され、死亡者の85%はアフリカ、南東アジアにおいて見られた。

麻疹研究施設の世界的ネットワーク：麻疹の監視体制を支援するための研究施設を充実させるため、麻疹研究施設のネットワーク作りが地球レベルで進んでいる。

編集ノート：ワクチンにより予防可能な疾患であるにもかかわらず、1998年だけで100万人近い死亡者を出した。予防接種率を高めることが罹患率や致死率の低下に重要である。

<WHO 東地中海地域における麻疹排除に向けての進展状況、1980年-1998年>

1997年、WHO 東地中海地域23の国や地域で2010年までに麻疹を排除することが唱えられた。これらの国はポリオの根絶状況と麻疹の流行状況に基き2つのグループに分けられた。その基準は(1)少なくとも3年の間にポリオの常在性の伝播がなく、(2)急性弛緩性麻痺(AFP)に対する確かな監視体制があること、である。グループ1は、ポリオが現在流行しているあるいは、最近まで流行していた国である。これらの国は麻疹の罹患率と致死率を減少するための活動をしている。グループ2はポリオフリーの国であり、WHOの勧告に従って麻疹の排除に対する施策を実行している。

麻疹定期予防接種率の報告：1998年、モロッコを除くグループ2の14の国や地域における麻疹ワクチンの2回接種計画において、1歳児における少なくとも1回の接種率は96%であった。

補足的予防接種キャンペーン：1994年-1999年の間にグループ2の13万人の小児が補足的予防接種キャンペーンで予防接種を受けた。

麻疹罹患率の報告：図1参照

監視体制の強化：研究者の集会が東地中海地域の国々のために、1997年と1998年にテュニジアで開かれた。地域的麻疹研究ネットワークが、麻疹根絶計画を支援するために設立される予定である。

根絶活動の効果：1990年以来、出生登録を追跡するシステムにより、オマーンは定期的麻疹ワクチン接種を高率で達成している(95%以上)。1994年のキャッチアップキャンペーン率は93%だった。それにより麻疹の罹患率は極めて低下した。クウェイトでは1回目は1994年、2回目は1998年とキャッチアップキャンペーンを2段階で実施している。症例は1994年の462件から1995年の12件まで減少した。しかし、1998年には90件に増加した。

編集ノート：現在、麻疹根絶を目標としている東部地中海地域の14の国や地域における優先的活動は、(1)初回の高い定期予防接種率を維持する、(2)キャッチアップキャンペーンにおけるレバノン、モロッコ、西岸/ガザでの接種率、及び2回目の定期予防接種率を高める、(3)キャッチアップキャンペーン後の経過観察、(4)監視体制を強化と地域的な麻疹研究所ネットワークの設立である。

表 1(p. 430): 1997年、1998年の WHO地区別及び世界の 1歳時における麻疹定期予防接種報告率

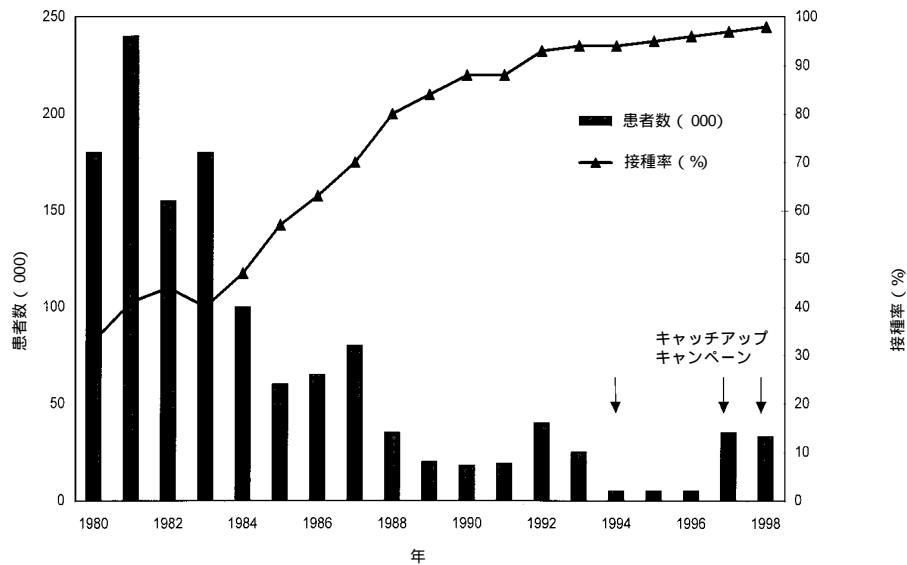
表 2(p. 432): 1997年、1998年の WHO地区別及び世界の麻疹報告患者数と麻疹監視体制の比較

表 1(p. 435): 1998年の WHO東部地中海地域における国/地域別麻疹予防接種計画、予防接種率及び罹患率

表 2(p. 436): 1994年から 1999年の WHO東部地中海地域における国別麻疹ワクチン接種の詳細

図 2: 1980年から 1998年のオマーンにおける麻疹患者報告数と予防接種報告率 (WER参照)

図 1 1980年 -1998年のWHO東部地中海地域における麻疹患者報告数と予防接種報告率



1983年から 1987年までに、麻疹予防接種率は 30%から 70%まで増加した。症例数は 1980年の 18万 4000例から 1985年の 6万 1000例に減少した。1980年から 1998年まで、報告された麻疹の罹患率は、197.8/10万人から 14.4/10万人まで 93%低下した。

流行ニュースの続報

インフルエンザ

ブラジル、フランス、イスラエル、ノルウェー、スペインにおいて、1999年 11月から 12月にかけて流行が報告された。(WER参照)

流行ニュース

インドにおける日本脳炎

国立保健省は 9月初め、Andhra Pradeshにおける日本脳炎の集団発生を報告した。10月 6日現在で、965症例のうち、200人 (主に小児) が死亡した (致死率は 20.7%)。

(坂本智華、津田紀子、小西英二)